

桃陵同窓会報

人生はチャレンジ

桃陵同窓会会長 田村庄一

木の芽が膨らみ、あらゆる生命がイキイキと躍動し始める春の訪れとともに、いよいよ美社会に羽ばたく95名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、母校でのさまざまな学びやクラブ活動、地域とのふれあいや課題研究活動、そしてクラスメイトとの友情やその思い出を胸に、新たな決意で旅立ちの日を迎えられたことと思います。皆さんのご活躍ご発展を心からお祈りいたします。

私が母校（篠山農業高校水上分校）に入学したのは1960年4月。折りしも、分校からの独立をめざす大詰め3年間となりました。地域からも、独立校にふさわしい校訓「開拓者精神」に沿った学校づくりが求められました。

そんな雰囲気の中で、みんなも何かを感じ、「独立」に向かって努力してきました。そして、母校が「水上農業高等学校」として独立したのは私たちが卒業したひと月後、1963年4月のことでした。

その後60年。昨年は「農業高校生の甲子園」と言われるFJ全国大会が兵庫県で開催され、皆さんは、プロジェクト発表という60年に一度のチャンスを恵まれたのです。きっと全国の農業高

校生の熱い思いの発表に感動されたことと思います。

全国各地の農業高校がめざす「地域農業の担い手育成」。しかし農業経営の現状や農業をめざす若者の就業環境は厳しいものがあり、若者の夢につながる国・地方を挙げての持続可能な農業のあり方が問われています。

同窓会としても、「ぜひ農業に」「ぜひふるさとで」との思いはありますが、人生は一人ひとりのもの。夢は自由に描くべきものです。

卒業生の皆さんがこれから進む人生は、人さまざまですが、どのような道を進もうとも人生には、多くの人々との出会いがあります。加えて、人は一人では生きられない。多くの人に支えられての感謝の人生です。

皆さんが良き上司や仲間巡り合える秘訣は、常に自分自身を高めようとする心意気とチャレンジです。そして同時に、人々への思いやりやまごころが大切です。

改めて皆さんの「熱い思い」と「チャレンジ」。そしてご多幸をお祈りいたします。

同窓会の皆様へ

校長 正井 秀明

同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は本校の教育活動についてご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

1947年に誕生した本校は、創立74年目となりました。約1万1千名余の有為なる人材を世に送り出しています。現在本校では学科改編が完了し、今年度から3学年全てで「生産ビジネス科」「食品ビジネス科」「生活ビジネス科」となりました。地域の発展に貢献する人材の育成を目指し、農業科の中に商業科目を取り入れて生産・加工・販売までを包括的に学ぶ6次産業化を目指しています。

6次産業とは、生産（1次産業）×加工（2次産業）×販売（3次産業）のことです。学校設定教科「丹波学」を設け、その中に学校設定科目「地域未来」（1年生）・「起業経営」（2年生）を学び、3年生の「課題研究」に繋げていきます。この試みは全国でも類のない特徴的なものです。それだけに先進校による参考事例もなく、まだまだ内容的に自校発の改善の研究が必要かと思われまます。

今年度は農業クラブ全国大会が、ここ兵庫県で開催されました。本校はプロジェクト発表の担当校として、7月に兵庫県大会、10月には全国大会の運営を行いました。コロナ禍にあって安全対策の強化や感染拡大予防対策の

と会場を2カ所にして実行しました。準備から当日の運営まで職員と生徒が心を一つにして頑張りました。おかげさまで無事大会を終えることができました。当日は教育長までご覧くださり、生徒の様子を見て大変感心したとのことでお褒めにあずかりました。生徒諸君にとってもこの経験は本心に自信になったと思います。

さて、コロナ禍にあってエッセンシャルワーカーという言葉が使われるようになりました。社会にあって我々が日常生活を維持していく上でなくてはならない職業に就いている人々を意味する言葉です。農業従事者もそうです。農業生産物は我々が生きていく上で必要不可欠な物だからです。もちろん、これからの農業は勘と経験だけでは駄目です。しかし経験というものは、やはり大切です。特に体で覚えた経験というものは一生もので、必ず身につけていきます。長いプランクがあっても再開するとすぐ勘がもってきてやれるようになります。そういった意味でも水上高校で学んで身につけたことが必ず役に立つ日が来ると確信しています。

最後に、今回卒業され会員になられる皆さん、また、これまでの桃陵同窓会員の皆様、今後とも母校水上高等学校の応援をどうぞよろしくお願い致します。

同窓会と3年生との会談から

11月19日(土)の桃陵祭におきまして、足立副会長と谷垣副会長、OBの高見康彦氏の3名が、3年生の各科代表生徒との座談会を行いました。約1時間という短い時間でしたが、色々とお話いただきました。(紙面は抜粋して掲載しています。)

山内(司会)：すみません。お手元の資料にありますように、同窓会の役員さんやOBの方にお越しいただいております。順に自己紹介をお願いします。では、足立副会長さんからお願いします。



応接室での座談会の様子

足立(副)：足立です。よろしくお願います。

山内(司会)：おひとり飛ばしまして、女性の副会長さんの谷垣さんです。

谷垣(副)：よろしくお願います。

山内(司会)：中央はOBの高見康彦さんです。

生徒は手前から3年1組、2組、3組の順で、まず1組は勢志友哉くんです。2組は由良樹希斗くんです。3組は高田彩さんです。それでは、まず役員さんから順番に自己紹介をお願いします。

足立(副)：先ほどありました足立正典と申します。よろしくお願います。副会長いう事で、もう何年になりますか？3年ですかね？本日、田村会長が来られないという事で、私ともう一人の副会長にきていただいております。私は水上町の出身です。水上町で今年まで農業を主体にやっております。今年の4月からは法人を立ち上げ、そちらに経営を譲っております。今は自分の農地で小豆を作ったり、米を作ったり、それと法人のお手伝いをしております。以上です。よろしくお願います。

高見(OB)：こんにちは。市島町から来ました株式会社丹波高見農場の高見康彦と申します。よろしくお願います。僕もこの学校のOBということ、高校を出て「鯉湖学園」という農業大学に進み、卒業後は11年間農協に勤めていました。

そこを退職して、今は高見農場の2代目ということをやっています。経営の方は水稲と黒大豆、小豆、野菜の方では人参を栽培しています。全部じゃないんですけど有機栽培とか、特別栽培とかをやっています。あと、加工品もやっており、人参ジュースを作ったり、黒豆コーヒなどもやっています。今日は初めて

なのでよろしくお願います。

谷垣(副)：失礼します。桃陵同窓会の副会長をしています。谷垣です。春日町に住んでいます。私は主婦なんです。結婚してそれから36歳からJAに入りました。15年ほどJAで務めていました。今は、農業は小豆を3反ほどと水稲を7反ほどしています。よろしくお願います。

山内(司会)：そうしましたら、勢志くんから順番に自己紹介をお願いします。

勢志(生産)：1組の勢志です。出身中学校は水上中学校で進路は就職です。就職先は三立製菓株式会社で「源氏パイ」を作っているところに就職します。以上です。

由良(食品)：2組の由良です。進学先は、福知山の自動車整備の学校に進学する予定です。趣味は釣りです。

高田(生活)：3組の高田です。出身は姫路市立的中学校で女子バレーボール部に所属しています。卒業後は広島国際大学に進学してバレーボールをしながら看護を学びます。以上です。

山内(司会)：それでは司会も自己紹介をさせていただきます。生徒の皆さんはよく知ってると思いますが、私も水上高校の卒業生です。卒業したのが昭和60年なんですけど、実は高見さんが昭和61年で1つ下の学年で2つ下のこともありまして、無理をお願いしています。まあ資料にも書いてありますが、卒業生の方はかりです。昔の話なども聞いて頂いて、逆にOBの方は、今の生徒に色々な事を助言していただけたらありがたいと思います。

では、早速ですが、勢志くんはどうでしたか？水上高校に3年間通ってみて、入学する前と、もうすぐ卒業する前で違いとか感じた事はなかったですか？

業する前で違いとか感じた事はなかったですか？

勢志(生産)：入学する前は、水上高校でどんな事をするんやろ？みたいに結構曖昧な感じで入学してきたんですけど、3年間勉強してみても農業の事とか、牛とか豚とか鶏の事なんかを詳しく知れたり、あんまり就職先には関係ないんですけど、家が農業やっているので手伝えればいいかなと思っています。

山内(司会)：同じ質問ですけど由良くんはどうですか？

由良(食品)：水上高校に入って初めて農業に触れることがあって、水上高校の食品ビジネス科は農業から食品の加工まで学べるっていうところで、将来の進路には関係ないんですけど、自分の中で人と関わったり色々な作業とかで色んな力が身につけたと思います。



両副会長(左,右)と高見康彦氏(中央)

山内(司会)：高田さんどうですか？全然知らないところに来て、それもバレーで頑張ってくれましたが、今までバレー部の生徒が来てくれてという機会がなかったの、そういう部分から話してもらえたら嬉しいのですが。

高田(生活)：なんか中3の時に色んな高校で迷っていた時に、農業をしないといけない事に引っかけました。虫も苦手やし、水上は無いかかって思ってたんですけど、1回体験入学に来てこのバレー部を知った時に、農業のとかどうでもいらいくらいにバレーに憧れてきたんです。

けど入学して、何回か農業の授業があって最初は本当に嫌で嫌で仕方なかったんですけど、今は1人ずつ畑を分けてもらって野菜を育てたりしているんですけど、野菜とかを育てて収穫する時にすごく楽しくなってます。

山内(司会)：だいぶ虫には慣れましたか？

高田(生活)：慣れてないです。

山内(司会)：今ね、入る前と入った後のことを言ってくれましたけども、僕も在学中に農業クラブの役員をさせてもらったので、それで学校以外のところに行かたって言うのがあります。勢志くん、今年は農業クラブで役員をやってくれましたが、どうでしたか？よその学校に出て行くというの面白くないか？

勢志(生産)：そうですね。県農とかへよく行きましたが、設備とかが水上高校とは比べもんならぐくらい凄くて、「農業に全力!!」みたいな学校を見に行けたのは楽しかったです。

山内(司会)：多分、柏原高校や水上西高校でも学校の中では色々出来るけど、学校の外での取り組みはあまりないと思います。そういう意味でバレー部なんかは全国規模で試合に行ってるから、3年間で色んなところへ行ってそれはそれで面白かったと思うんですけど、やっぱり学校の内外の勉強、例えばインターンシップでもそうですが、そういった

ところがどうでしたか？面白かった
ですか？嫌でしたか？

高田 (生活)：楽しかったです。

山内 (司会)：それが今年、農業クラ
ブの全国大会をさせてもらいまし
た。コロナの関係で外部の方をお呼
びすることが出来なかったのは非常
に残念ですが、全国大会に関わる
のは僕ら職員でも何十年やって一
回有るか無いかなんです。それが
この子らは3年生の時に上手いこ
出来て、非常に羨ましい。

全国大会に行けるのは滅多にない
ことで、その雰囲気味わえるのは
中々無いですからね。バレー部は
今年も全国に行っていますがそれ
非常に難しいことですから。

由良 (食部)：あ、はい。サッカーはキ
ーパーしてました。中学校の時はテ
ニスをしていて、高校の最初もテニ
スに入っていました。一度盲腸の手
術をしてから部活やめて、スポー
ツをせんようになったんですが、友
達の誘いでサッカー始めました。サ
ッカーは初めてやったけど、部活の
とめっちゃ楽しかったです。

山内 (司会)：農業高校なんでね、部活動
はなかなか人数がそろわなかった
り、当番とかがネックになるんや
けども、色んな行事もやし、部活と
かも出来るのは高校時代しかない
と思います。普通の学校やったら部
活か勉強しかない。水上はそれ以
外にも選択肢はあると思うんで、
そういう面では良い学校なんやない
かなと思っています。正直バレー部
は、良い意味で格別ではありますが
谷垣 (副)：農業高校はやっぱり畜産であ

れ、野菜であれ、味噌作りであれ、
生き物を育てます。デスクワークで
勉強するんじゃないんで、そういう
体験やね。直接触れて学ぶことが
良いと思います。

足立 (副)：全国大会は良かったです
ね。僕は生徒会の方しかしてな
かった。農業クラブの人が羨まし
いと思って、やっぱりその色んな
交流があるのはね。

だから一つの出会いというのは色
んな勉強になるし、これからは
ね。社会に出てからも人との出
会いを大事にしていて自分のもの
にしていくことは、自分のこれ
からの生活なりビジネスにも活
かしていかすのでね。特に大事に
ほしいなと思います。

高見 (OB)：北海道の実習はないん
ですか？

山内 (司会)：7年前までは北海道の実
習は行ってたと思いますが終わ
りました。長野も一昨年で全員
参加する実習は終わってしま
うけど、昨年は長野実習を違
う形で再開する予定だったん
ですが、コロナの関係で行け
なくなりました。来年度には多少
おさまって実施できないかな
？とは思っています。希望制に
して、学年で手を挙げた生徒
を連れて行く予定なんですけど
。あの実習はうちの学校の売
りのひとつなので、なんとか形
を変えてでも残していきたい
と思います。

高見 (OB)：1週間か10日ほど
でしたね。

山内 (司会)：1週間以上行って
ました。

高見 (OB)：農家に入って、そ
こで寝泊まりして実習して。ほん
まにいい経験ですよ。

山内 (司会)：まず、広すぎて
ね。自分がどこの農家に入
ったのか分からない。さら
に僕らの時は1人でしたか
らね。

高見 (OB)：そうそう、1人
ですね。

谷垣 (副)：ええ体験やね。

高見 (OB)：そらね、どうせ
農業するんやったらあそこ
に入りたいですね。一千万、
二千万円する大きい機械
を持って、楽しいですよ。

山内 (司会)：朝は早いす
けどね。忙しいし、しんど
いけど、インパクトのある
思い出として残ってます
からね。あれは水上高校
やない絶対できない
経験ですからね。

足立 (副)：自然の中で、
勉強が出来るのはええ
と思う。僕らの時は会社
やったりさかい。カネ
テツとかバヤリースとか
行って、コンベアーの
一部になってしま
う。明けても暮れても
かまぼこ作りで、流
れてきよる製品見て
ほんまに単純な作業
やさかい、今ゆうたら
あかんけど面白い
かったです。

OBの人に会ってもそれはよく
言われますわ。僕ら北海道
行ってな。出会った
らこの話から入ります
わ。卒業生に出会って
話す時は必ず実習の
話から入ります。そう
か、ゆうて聞いて
るんやけど。

山内 (司会)：やっぱり
実際に現物を触ると
いうのは大切やと思
います。うちの1年
生は「育てた鶏を解
体して食べる」と
いう実習をしています
。当然、解体は嫌な
ことですが反面、
ヒヨコを触ること
で生き物の体温が
感じれる。今は
やりのチューブを
画面で見てもそれ
は流石に分らない
ことで、やはり
実物を見る、触
るとゆ

うのは大きな勉強
やと思います。

例えば、高田さん
が行く看護系な
んか一番シビア
やで、相手は人
間やから。人間
対人間って一番
難しいとこや
けど、ペーパー
だけで勉強して
入っていくより
も、現物を触
って学ぶ方が
いい。僕らは世
の中へ出て行く
ためには僕ら
が良いと思
います。ノウ
ハウ全てが身
についていく
わけではない
けど、やっぱり
接し方が変わ
る。例えば、
保育実習とか
行ったん違
うんかな？
認定の子
らとか交流
したりとか。

高田 (生活)：あっ、行
きました。

山内 (司会)：そ
うゆうのがあ
ったら、小
さな子ら
あに
対する
看護
の仕
方も
ちょ
っと
は変
わる
わけ
やん。
これ
か
ら5
年、
10
年
経
たら
上
手
い
こ
使
て
い
け
る
ん
や
な
い
か
思
い
ま
す。

高田 (生活)：地元の
高校じゃなかった
から、育った環
境とかが全然違
うし、入学して
ほんまになんか
方言ゆうのが
伝わらんし。

山内 (司会)：言葉が
播州と丹波では
だいぶ違
うん
な。

高田 (生活)：なんか、
意味も理解でき
んくて。でも逆
にクラスで盛り
上がる
こと
が多
くて、
す
ご
い
伸
び
伸
び
して
まし
た。優
しい
子
が
い
っ
ぱ
い
お
っ
て、
た
だ
そ
れ
に
助
け
ら
れ
て
3
年
間
来
た
な
っ
て
思
っ
て
い
ま
す。
誰
も
が
バ
レ
ー
に
集
中
さ
せ
て
く
れ
る
環
境
を
こ
の
学
校
の
人
全
員
が
作
っ
て
く
れ
た
の
です
。ご
く
や
り
や
す
か
っ
た
で
す。

谷垣 (副)：寮生活で
ホームシックとか
なかったか？

高田 (生活)：あり
ました。

谷垣 (副)：やっぱり

足立 (副)：食べ物
はどうでした？
やっぱりこ
っちの方が
美味しい？

高田 (生活)：美味
しいです。

足立 (副)：やっぱ
り違いますか？

高田 (生活)：トマ
トがめっちゃ
苦手やっ
たんですけど、
このトマトは
食べれるな
と。

山内 (司会)：まあ
自分らで作
ってるし、自
分で育てる
ものはなん
にしても可
愛いし、愛
情がうつる
し、例えば
それがトマ
トやったら
美味しいと
ゆうこと
にもなるし。

谷垣 (副)：中
学校でから
親元はな
れて、色々
苦労もあ
ったやろ
うけど、乗
り切った
ことば
素晴
らしい
思
い
ま
す。

山内 (司会)：あ
りがどう
ございま
す。ま
たこんな
形で色々
お話が
出来る
こと
が
あ
れ
ば
あ
り
が
た
い
で
す
し、
今
後
も
OB
の
方
か
ら
色
々
伝
授
い
た
く
こ
と
も
多
い
と
思
い
ま
す
。よ
ろ
し
く
お
願
い
し
ま
す。
今
日
は
短
い
時
間
で
あ
り
ま
し
た
が
あ
り
が
ど
う
ご
ざ
い
ま
し
た。

全員：ありがとうございます。



左より 勢志君、由良君、高田さん

令和3年度 桃陵同窓会経過報告

- 4/8 水上高校入学式 (来賓出席なし: 新型コロナの為)
- 6/18 桃陵同窓会理事会 (三役・理事ほか)
- 7/16 桃陵同窓会総会 (三役・理事・代議員ほか)
- 7/2 クラブ後援会会議 (田村会長・足立副会長出席)
- 8/24 学校評議委員会 (田村会長出席)
- 11/20 桃陵祭 (足立副会長・谷垣副会長・高見康彦氏出席)
- 12/18 第10回課題研究発表会 (田村会長出席)
- 12/22 女子バレーボール部壮行会 (田村会長祝詞披露)
- 1/1 丹波新聞新年広告掲載
- 2/25 桃陵同窓会入会式 (田村会長・足立副会長・谷垣副会長出席)
- 2/28 水上高校卒業式 (田村会長出席)

卒業生の皆さんへ

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
 水上高校で過ごされた3年間は、楽しかったこと、苦しかったこと。また、農場実習や加工実習など他の高校では経験できないことを色々経験されて、大きな自信となり成長されたと思います。
 私も当時、水上高校で勉強やクラブ活動に夢中になっていた時を思い出しながら思います。
 特に北海道への体験実習で、朝早くから牛の世話や、大自然の中の機械作業など楽しい事ばかりでした。また、クラブ活動では野球部に所属し、毎日苦しい練習ばかりでしたが、弱いチームが強くなるまで、一生懸命頑張る、そして人との出会いを大切にすることで、運が付き、自分の夢をかなえるきっかけになると思います。
 皆さんも、4月からは新しい生活が始まりますが、一生懸命頑張ること、人との出会いを大切に、「開拓者精神」を忘れずに頑張ってください。また、自分の夢や目標をもってワクワクする毎日を送ってください。

卒業生の皆さんへ

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。思い出せばこの3年間、皆さんとマスク無しでコミュニケーションを取れた時間は、わずか1年間でした。
 一つになれば、マスク無しで皆さんと話したり、笑ったりできるのかと、その日が再び訪れることを心待ちにしながら、共に過ごした3年間でしたね。
 そして、いよいよ皆さんは卒業を迎えます。コロナ禍でなければ出来たはずだった多くの経験、そ

卒業生の皆さんへ

れにまつわる思い出、皆さんは経験することも思い出を作ること出来ません。けれど、私は思うのです。コロナ禍での高校生活だったからこそ、経験できたこと、考えたことがあったのではないかと。
 水上高校で3年間を過ごした皆さんは、それを見つけたら嬉しい、これから先も見つけられることが出来るはず。今は、そのことの大切さに気が付かないかもしれませんが、この先きっと水上高校で皆さんが得たものの素晴らしさを知るときが来るはず。また、そうであって欲しいと心から思います。
 卒業生の皆さん、新しい時代もまた、皆さんの可能性は無限大です。どうか、この時代を悲観せず、前向きに力強く歩いていきましょう!!
 はらだも共に歩いていきます!!
 3年間ありがとう。
 (平成33年度卒業生 原田江身子)

教育活動など(新聞記事より)

農業高校生の熱い思いに期待
 田村 庄一 76歳 学校農業クラブ連盟(中) 副会長
 農業高校生の熱い思いに期待、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。思い出せばこの3年間、皆さんとマスク無しでコミュニケーションを取れた時間は、わずか1年間でした。
 一つになれば、マスク無しで皆さんと話したり、笑ったりできるのかと、その日が再び訪れることを心待ちにしながら、共に過ごした3年間でしたね。
 そして、いよいよ皆さんは卒業を迎えます。コロナ禍でなければ出来たはずだった多くの経験、そ

桃陵同窓会役員

会長	田村 庄一 (春日町)
副会長	足立 正典 (水上町)
理事	谷垣恵美子 (春日町)
	白井 和彦 (春日町)
	荒木 弘行 (柏原町)
	亀井 一郎 (柏原町)
	岸田 学 (福知山市)
	秋山 徳人 (尼崎市)
	片山 成子 (神戸市)
	石田満里奈 (水上町)
	北岡 悠 (水上町)
	山本 和成 (春日町)
	福田 茂之 (水上町)
	久下不二子 (春日町)
事務担当	山内 英昭
校内理事	脇坂 英男
事務局	南 晃弘
幹事	余田 正明
	井上 美子
	石丸真里江

あとがき

ご存じのとおり、学校では一昨年に突如発生した新型コロナウイルスの影響で、行事の縮小や延期が続いています。修学旅行などは中止せざるを得ない状況で、数年前まで当たり前だった活動のほとんどを改めることが必要になりました。
 また、今年卒業する生徒からは成人年齢が18歳になり(2022年4月1日から)ありますが、今までより2年も早く社会人としての義務や責任が付随することとなります。民法が定める成年は、親の同意を得なくても自分の意思で様々な契約ができるようになるようです。
 (例えば、携帯電話の契約やクレジットカードを作るなど) 親権に服さなくなるため、自分の意思で決定することができず、世の中にはまだまだ学ぶことが数多くあります。
 成年としての自覚を持つと共に、さらなる高みを目指して日々生活して下さい。
 本年度、同窓会では総会の実施や会報の発行しかできませんでしたが、新たに95名の卒業生の入会を喜びと共に、「水上高校」と共に進む「桃陵同窓会」となるよう頑張ってください。多くの会員の皆さんにも、引き続きご理解ご協力が賜れますようお願い申し上げます。
 (事務局)

目指せ 農業高校の頂点

306校、品質改良や育成技術競う
 農業高校生の熱い思いに期待、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。思い出せばこの3年間、皆さんとマスク無しでコミュニケーションを取れた時間は、わずか1年間でした。
 一つになれば、マスク無しで皆さんと話したり、笑ったりできるのかと、その日が再び訪れることを心待ちにしながら、共に過ごした3年間でしたね。
 そして、いよいよ皆さんは卒業を迎えます。コロナ禍でなければ出来たはずだった多くの経験、そ

2021年(令和3年)10月28日 木曜日

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。思い出せばこの3年間、皆さんとマスク無しでコミュニケーションを取れた時間は、わずか1年間でした。
 一つになれば、マスク無しで皆さんと話したり、笑ったりできるのかと、その日が再び訪れることを心待ちにしながら、共に過ごした3年間でしたね。
 そして、いよいよ皆さんは卒業を迎えます。コロナ禍でなければ出来たはずだった多くの経験、そ